

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400211		
法人名	株式会社ハピネライフ光		
事業所名	グループホーム すいせん渡橋		
所在地	島根県出雲市渡橋町304-1		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットの特性を活かし、細かい入居者の訴えも見逃さず、寄添い対応する事を心掛けている。また、本人のペースに合わせ生活して頂ける様になっている。
また、家族や主治医等の他職種、機関との連携を行い、入居者の日々の様子や生活をお伝えし支援を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に小規模多機能、地域密着型デイサービス、19床の有料老人ホームがある。街中の交通量の多い限られたスペースの中では、日常的に外出することはしにくく、コロナ以前には地区との関わりも持っていたが殆どが無くなっている。その中でも午前午後1日2回の体操の時間も持ち、担当職員を中心に盛り上げ、楽しい雰囲気の中で笑顔が見られるよう取り組んでいる。現在も面会制限を続けざるを得ない中、管理者は短時間の面会時や電話等で家族への報告をできるだけ細目に行うことで、家族関係者との信頼関係が築けるよう関わりを増やしている。今後には同グループ内に複数サービスがあるという利点を生かして、それぞれの専門的知識を共有するなど職員個々のレベルアップに繋がるような取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時に理念の唱和をしているが、共有できていない。	朝夕の申し送りにグループ全体での朝礼は行われている。理念に沿って個人目標を掲げており研修がそれに繋がるように考えられており、年度末には評価するようにしている。	現在取り組んでいることを再検討するなど、職員間の意識共有に繋がるような取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に、年1回のハピネ祭りや月の行事に来ていただいたり、コミュニティセンターの活動にも参加していたが、コロナ過科の為昨年と今年は出来ていない。	地区のコミュニティセンターの行事には作品を出したり、見に出かけたりしていたが殆どの行事が中止になり交流できていない。自治会に加入しており清掃活動(溝掃除)には職員が参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で部外者への施設内の面会を禁止しているため、運営推進会議での書面にて地域の方に理解をふかめていただけるように努めていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し利用状況や活動、研修報告、意見交換の場になっているが、新型コロナウイルス感染症に伴い書面での報告になっている。	コロナの為集合しては行っていないが、コロナ以前の参加者(家族代表者、自治会長、市、包括等)には、口頭で意見を聞き事業所内で開催し書面で報告している。利用者状況、行事、研修、事故報告等を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、随時連絡を取り合っている。 運営推進会議はコロナ禍にて開催はできない状況だが、書面や連絡にて協力体制で取組んでいる	コロナ以前は市から運営推進会議に毎回参加があり、専門的アドバイスを得ていた。生活保護担当者とも年に1回訪問をうけたり、情報交換を行っている。認定調査でも関わりがありいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回行っている。6ヶ月に1回は内部研修を行い、職員全員にも理解してもらっている	定期的な委員会や研修は行っている。年に2回は振り返りシートで個人的にチェックを行い意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が気をつけて、観察を行っている。細かい部分でも記録を残し、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、理解している職員はまだ少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に加えて、入居時補足説明書を作り、重要な事をしっかり説明し、家族の疑問にも答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防で面会禁止のため、お便りや電話をした時などに意見や要望を聞いたりし、いただいた要望や意見は職員間で共有し運営に反映させている。	毎月往診の報告書と日頃の生活の様子を加えて送っている。行事等の写真を載せたグループホーム便りを年に4回、各月でケアセンターからの便りも送り意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、ケアカンファレンスで出た意見を代表者に届けている。職員から出た意見は、その場相談しあい、業務に取り入れたり、改善したりしている。	個人面談は定期的ではないが、必要と認められた場合するようにしている。管理者は話すことが苦手な職員に対してこちらから話しかけコミュニケーションを摂るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で意見をききながら反映している。管理者会議にて会社への要望として提案も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に内部研修を通じて取り組んでいるが、今後、可能であれば外部の研修も参加していく(コロナ状況による)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は、ほとんど無いため、これから増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者に担当職員をつけ、担当者を中心に、気がついたことがあれば、介護記録や連絡ノート、カンファレンスで情報を共有し、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見も尊重し、良好な関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスや支援の方法を提案、説明を行い、柔軟に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度自立できている方に関しては、ご本人のペースで出来ているが、介助が必要な方に関しては、こちらのペースで行ってしまっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際には、家族にも同行していただき、家族と協力しながら援助する関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出や家族以外の方との交流が出来ていない	コロナの為面会はオンラインか玄関先で15分以内になっており、かなり減っている。理美容については、以前から移動式の車の利用を続けている。	精神面の刺激の為に様々な手段で関係継続に努めていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考え、利用者同士に輪が出来やすいように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば、随時受けており、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の声を、楽しみ、やる気につながる様な支援に努めている。また定期的に希望食をお聞きし、食事レクとして取り入れている。	好きだったこと、得意な事等を家族の方に聞き目標に繋げるようにしている。運動がしたい方にはラジ体操したりできるだけ歩く機会を作っている。機嫌のいい時、いきいきしているときはどんな時かを見つけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やカンファレンスなどを通じて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく記録し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際に家族や主治医の意見、ご本人の性格や習慣を取り入れ、プラン作成に反映させている。	モニタリングを3か月に1回、計画の見直しも6か月に1回行っている。コロナの為利用者本人、家族など多くの関係者が集まって担当者会議はできていないが、電話等で様子を聞き計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録し、職員会議で情報の交換、共有をし、カンファレンスでの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外はほとんど出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する内科医院が、かかりつけ医となっているが、それ以外での医療機関からも2週間に1回往診に来ていただいている。 特変事には、随時往診にきていただいている。	入所時にかかりつけ医を決めているが、往診が可能ならば今までのかかりつけ医を続けることも、施設の協力医に変更することもできるようになっている。家族同伴で今まで通り受診を継続している方もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や異常があれば、他施設の看護師に見てもらい処置をしている。 受診が必要と思われる場合は、かかりつけ医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、ご入居者の状況をふまえて入院先の病院への情報提供し、病院、家族との連携をしている。また、治療や入院期間に応じてどこまで回復したら戻れるかを病院、家族と共有を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関して基本しないことになっている。重度化については状態に応じて主治医、家族、職員と連携を取りながら相談、検討を行っている	設備面、職員体制等を考え、積極的には行わない方針。現在も介護度5の方がおり重度化に向けては、ドクターの指示を受けできるだけ対応するようにしている。入院や施設を変わる際も話し合いの機会を持ちながら進めることとする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時対応の研修の機会を設け、日々のケアの中で急変時に対応について職員へ意識づけをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄は有料ホームにしている。 定期的に地域の方にも入っていただき、避難訓練を行っているが、全職員がいざというときに的確に判断ができるかは、不安である。	町中にあり自然災害は受けにくいですが、敷地の一部が低く水害時危険地帯になっていることもあり、浸水被害を含めて避難訓練を行っている。運営推進会議参加者には施設内を見てもらい協力を得ることができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴時など、プライバシーを尊重する対応をとっているつもりだが、適切でないときもある。	今月の内部研修のテーマとしている。改めて介護現場のプライバシーについて考える機会となっている。方言の使い方や声のトーンなど意識できていない面もあり、今後も繰り返し取り上げることとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを工夫し、本人の思いを引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えないときもあり、職員側のペースになってしまうときもあるが、極力添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、なるべく一緒に選ぶようにしている。出来ない方は、同じ服にならないよう、職員が注意して選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や台拭きなど、出来る方には、していただいている。行事レクの際には、野菜切や整形などを手伝っていただいている。	副食3品については湯煎で食べられる食材を利用。ご飯、お粥、汁物は作っている。調理の下準備等できる作業を職員と一緒にしたり、月に数回はおやつ作りも楽しんでいる。中庭でシソやミニトマトなど栽培し料理に使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み、ミキサー、お粥、トロミで、それぞれの方に合わせて対応している。 カロリー制限のある方には、糖分を控えた飲み物や食事のメニューを調整して、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ毎食後の口腔ケアを行っている。定期的に歯科医往診を行っている入居者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	PTイレを居室に設置している方も、日中はなるべく共用トイレを使用している。 オムツ着用の方は、要介護5の方で、それ以外は、自発的にトイレに行かれる。	介護度5でおむつの方もいるが、紙パンツにパットの方が多く布パンツの方もいる。排泄パターンを把握したり、前にトイレに行った時間を見ながら声がけをしたり、個々に合わせた必要な介助を行うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い体操を行い、運動への援助をしている。水分摂取も促している。便秘が及ぼす影響については、一部理解が浅い者も居ると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は、1週間単位で決めている。時間帯や順番は、その時の状況で職員が決めている。	日曜日以外午前2名午後1名、週2回入浴できるように振り分けている。介護度5の方は2人介助でシャワー浴で対応しているがその他の方は座位のまま入れる機械浴で1人1人ゆっくり入れるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで居室で休んでいただいている。眠れない時はホールで好きな時間まで過ごしていただけるよう声かけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のファイルに処方薬の効果や副作用、用量がわかるように綴じてある。変化があれば記録に残しているが、深くは理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部、家事活動を役割として取り入れている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて受診を除いては外出支援は出来ない。地域支援もほとんどできていない	以前から施設周辺は道幅は狭く、交通量も多いため散歩はしにくく、それでも安全そうな所を選んで歩くようにしていたが、コロナで外出は殆どできていない。茶菓子の買い出しにも出かけていたが無理なため、限られたドライブを楽しむ程度となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している方は1名だが、普段使う事はない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が施設へ連絡されおつなぎしている。コロナ禍で面会ができない為、リモートで支援し携帯電話を所持をしている方が2名おられ自由に家族と連絡をとっておられる。手紙のやり取りをされる方にはお手伝いをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、ほどよい明るさの照明にしている。常に花を飾り、季節を感じられるようにしている。玄関の飾りつけも、季節によって変えるようにしている。	ホールを囲むようにL字型に部屋があり、同グループ内の中にある中庭を見ることができる。町中で自然を感じることはしにくい為季節の花をいつも飾るようにしている。施設内は静かで、各部屋の戸には色とりどりの和紙が貼られ和風の落ち着いた雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置で、気のあった方、また、全員とも話しやすい席にしている。居室やトイレ以外で1人になれる空間は、無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っておられたなじみの家具や寝具を使っていただいたり、居心地よく過ごしていただけるように配慮している	大き目のクローゼットにタンスや物入れは施設側が用意しているため、あまり多くは持ち来られていない。テレビを置いたり、壁には写真や手紙、手芸の作品など思い出のあるものが飾られている。物を置くと落ち着かない方もあり、利用者に合わせた部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	拒否された方以外の方は、各自の居室の戸に氏名や目印を掛け、自分で帰室できる様援助している。		